

Trias 企業メモ 2009-11-20



2009年12月期 第3四半期 決算説明会サマリ

2009年11月11日、株式会社PALTEK(以下、PALTEK)の2009年12月期 第3四半期決算説明会が開催されましたので、概要をご案内いたします。

説明会出席者： 代表取締役社長	高橋 忠仁 氏
取締役	徳永 郁子 氏
オペレーショナルサービスディビジョン ゼネラルマネージャー	井上 博樹 氏

【2009年12月期 第3四半期 連結決算概要】

連結売上高は、2008年10-12月期(FY08/4Q)の5,231百万円から、今年度1Q 3,269百万円へと大きく落ち込み、その後、2Q 3,403百万円、3Q 3,934百万円と徐々に回復してきている。一方、粗利率は、FY08/4Q 14.8%から今FY09/3Qで14.6%とほぼ横ばいだが、2Qの14.4%から回復基調にある。ただし、今3Qは一部在庫の評価減を行っており(△22百万円)、粗利率を約0.6%押し下げている。この影響を考慮すると、実質粗利率は15.2%に回復した。これは、利益率の高いPLDの売上比率が上昇したことによる。売上高の緩やかな回復に加え、子会社合併による合理化効果もあり、営業利益は1Qの-4.0%から今3Qの-0.6%と、大きく改善した。

ソリューション別・アプリケーション別動向では、PLDは需給改善により、基地局を中心とした通信機器、放送機器向け量産案件が増加してきており、連結売上高の緩やかな回復に寄与している。アナログは、Q1が底であったものの、全般に横ばい状況で、課題が大きいソリューションと認識している。ASSPは、ブロードバンド通信向け、WiMAX向けが増加しているとともに、端末携帯向け等でタッチパッド用ASSPが堅調で、この傾向は今後継続と予想する。メモリーは全体として横ばい傾向にある。

【表1】ソリューション別連結売上高(四半期)

(百万円)	FY12/08		FY12/09			対前年同期 変化率	FY12/09(予)	
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		4Q	通期
PLD	1,403	1,580	1,169	897	1,226	-12.6%	1,108	4,400
アナログ	1,631	1,313	661	770	776	-52.4%	793	3,000
ASSP	1,805	1,906	1,122	1,372	1,542	-14.6%	1,464	5,500
メモリー	482	431	315	362	388	-19.5%	335	1,400
合計	5,323	5,231	3,269	3,403	3,934	-26.1%	3,694	14,300

※ PLD: プログラム可能な論理回路IC

ASSP: 分野・アプリケーションを限定して、機能・目的を特化させたLSI

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【表2】アプリケーション別連結売上高(四半期)

(百万円)	FY12/08		FY12/09			対前年同期 変化率
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	
通信機器	1,824	1,610	770	962	1,100	-39.7%
産業機器	1,508	1,677	1,159	975	1,193	-20.9%
民生機器	911	1,007	540	718	767	-15.8%
コンピュータ	298	286	222	220	228	-23.5%
その他	780	650	576	525	644	-17.4%
合計	5,323	5,231	3,269	3,403	3,934	-26.1%

【2009年12月期 通期業績見通し】

2009年度通期業績予想については、第2四半期決算発表時(8月11日)の見通しを維持する。売上高は、全般に穏やかな回復を見込む。粗利については上期水準を維持する一方、営業利益は経営統合効果の顕在化により、下期黒字化を見込む。

【表3】2009年12月期第3四半期(累計) 連結決算概要

(百万円)	FY12/08		FY12/09		対前年同期		FY12/09(予)	
	3Q累計	構成比	3Q累計	構成比	増減額	増減率	通期	構成比
売上高	15,494	100.0%	10,606	100.0%	△ 4,888	-31.5%	14,300	100.0%
売上総利益	2,307	14.9%	1,644	15.5%	△ 642	-28.7%	2,308	16.1%
販売管理費	2,208	14.3%	1,918	18.1%	△ 290	-13.1%	2,518	17.6%
営業利益	99	0.6%	△ 253	-2.4%	△ 352	n.a.	△ 210	-1.5%
経常利益	173	1.1%	△ 185	-1.7%	△ 358	n.a.	△ 180	-1.3%
純利益	76	0.5%	△ 91	-0.9%	△ 168	n.a.	△ 80	-0.6%

ソリューション別では3Qのトレンドが4Qも継続する見通しだが、課題のアナログソリューションについては、主力ベンダーのナショナルセミコンダクター社の製品で通信機器、産業用機器等の高機能アプリケーション用途を継続的に強化する一方、アジア系ベンダーの製品の取り扱いを強化し、ナショナルセミコンダクター社製品による領域以外を積極的にカバーしていく。アジア系ベンダーによる製品群は、2010年12月期以降の収益に貢献すると予想している。

【質疑応答】
Q1. アナログソリューション事業の今後の見通しは？

A1. アナログ関連事業は、i-phone 関連売上を中心に、ピーク時 50 億円以上の事業規模であったが、現在は 16 億円程度に縮小している。主要ベンダーであるナショナルセミコンダクター社の戦略変更もあり、現在は通信インフラや医療等の付加価値の高いアプリケーションが中心となっている。このため、売上高は減少しているが、粗利率については、ピーク時の 2007 年当時と比べると 5%ほど改善している。高付加価値なアプリケーションに注力することはもちろん、今後は、アジアベンダーの製品を扱うなどして、民生用アプリケーション向けビジネスも強化していきたい。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

Q2. 今第3四半期に実行した在庫評価減の詳細は？

A2. 顧客メーカーの製品寿命が短くなっており、ライフサイクルに合わせた評価減を行った。主に PC、携帯電話向けなどアナログソリューション関連の在庫で、使われる可能性が低いものだ。今後同様の評価減が発生する可能性は小さいと考えている。

Q3. 今後有望なアプリケーションは？

A3. 通信の送電線インフラ等、重電関連のアプリケーションは、低炭素社会実現につながるPLDソリューションとして有望と考えている。日本は、いわゆるスマートグリッド(主に米国で推進されている発想で、通信/IT技術活用によるインテリジェントな電力システムを構築し、電力の需要と供給を最適化しようというもの。)に遅れているが、太陽光発電の出力安定化等のニーズを含め、日本においても電力システムの最適化ニーズは高まると予想する。そういった新しいアプリケーションに関する営業強化を行っている。

Q4. アナログ関連子会社を本体に吸収した効果は？

A4. まだキャッシュフローには結び付いていないが、技術・営業面でシナジーの出る体制は構築できた。今後、設計支援など、シナジーを生み出せる事業を推進していく。

以上

【ご参考】
(7587) 株式会社 PALTEK
連結主要指標と業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2008.12月	11,849,899
うち自己株式数(株)	2008.12月	189,668
時価総額(百万円)	2009.11.19	3,342
一株当純資産(円)	2008.12月	697.9
ROE(%)	2008.12月	0.7
ROA(%)	2008.12月	0.6
PER(倍)	2009.12月予	n.a
PCFR(倍)	2008.12月	32.1
PBR(倍)	2008.12月	0.4
株価(円)	2009.11.19	282

連結主要データ		
総資産(百万円)	2008.12月	10,322
自己資本(百万円)	2008.12月	8,137
有利子負債(百万円)	2008.12月	550
自己資本比率(%)	2008.12月	78.8
有利子負債比率(%)	2008.12月	6.8
フリーキャッシュフロー(百万円)	2008.12月	580

注: ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均

ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均

PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)

有利子負債比率=有利子負債÷自己資本

フリーキャッシュフロー=営業CF+投資CF

連結(百万円)	売上	営業利益	経常利益	純利益	一株益(円)	一株配(円)
2005年12月期	17,946	541	373	243	20.50	10.00
2006年12月期	14,729	△ 412	△ 42	△ 36	△ 3.10	10.00
2007年12月期	20,655	△ 300	△ 222	△ 258	△ 22.10	10.00
2008年12月期	20,726	131	286	59	5.10	10.00
2009年12月期中間期	6,672	△ 230	△ 185	△ 84	△ 7.22	0.00
予2009年12月期	14,300	△ 210	△ 180	△ 80	△ 6.86	5.00

注 2009年12月期予想は、2009年8月11日発表の会社予想

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。